

(2) 大分県の林業の現況について

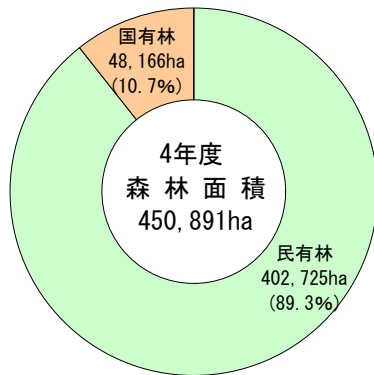
大分県の森林面積は約45万1千haで県土の71%を占めており、この豊かな森林資源は、木材の生産をはじめ、しいたけ等の特用林産物の生産など、林業・木材産業の発展と山村の振興に寄与している。また、森林は、水源のかん養や県土の保全、保健休養の場の提供、地球温暖化の防止などの公益的機能を発揮しており、安全で快適な県民生活の確保に大きな役割を果たしている。

① 森林資源の現況

ア 森林面積

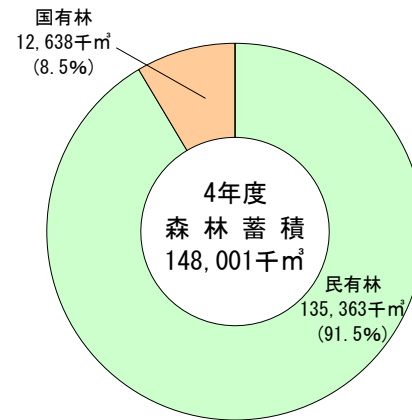
- 地域森林計画対象民有林の面積は40万3千haであり、森林面積の89.3%を占めている。

	大分県	全国
国土面積(千ha)	634	37,797
森林面積(千ha)	451	25,025
森林率(%)	71	66



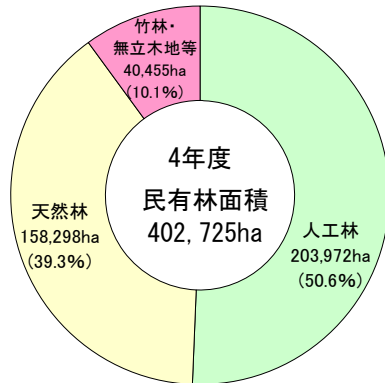
イ 森林蓄積

- 森林蓄積は1億5千万 m^3 であり、うち民有林は1億4千万 m^3 と91.5%を占めている。



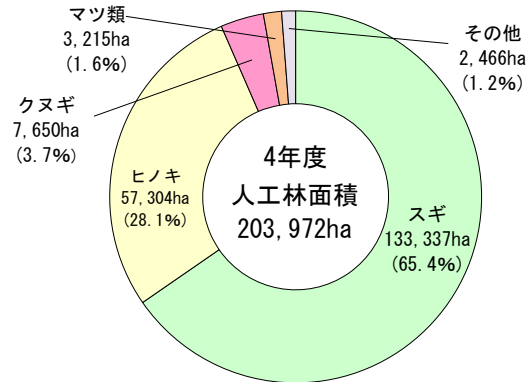
ウ 民有林の林種別面積

- 民有林面積40万3千haのうち、人工林は20万4千haで50.6%を占めている。



エ 人工林の樹種別面積

- 人工林の樹種別面積では、スギが65.4%、ヒノキが28.1%を占めている。



資料：森林面積：森林法第2条第1項に規定する全ての森林（林野庁「森林資源の現況」令和4年3月31日現在）

※森林法第2条第1項に規定する全ての森林：地域森林計画対象民有林＋林野庁所管国有林＋その他の森林

※森林法第5条以外の民有林及び林野庁所管以外の国有林、演習場、都市緑地、境内林等を除く

森林率：（森林法第2条第1項に規定する全ての森林）÷（総土地面積）

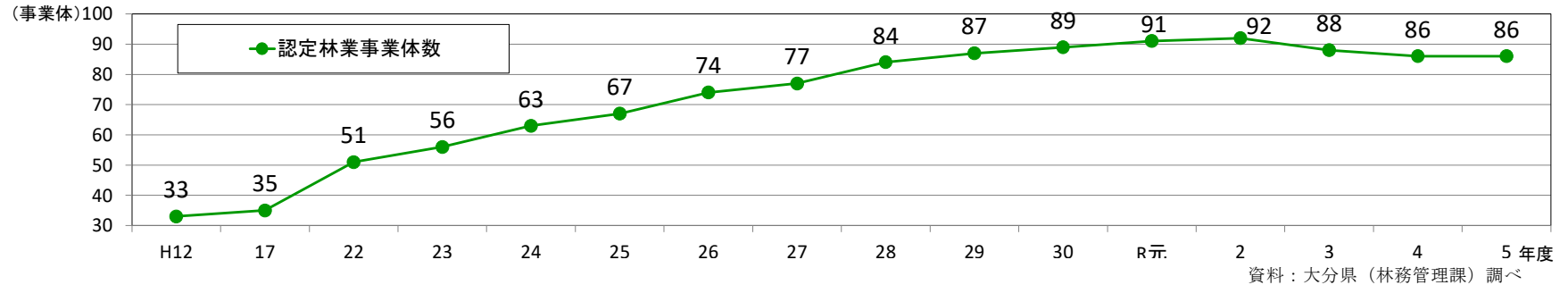
国土面積：国土地理院「令和5年 全国都道府県市区町村別面積調」

② 担い手の状況

ア 認定林業事業体数

認定林業事業体数は、令和5年度は前年から変わらず86事業体となっている。

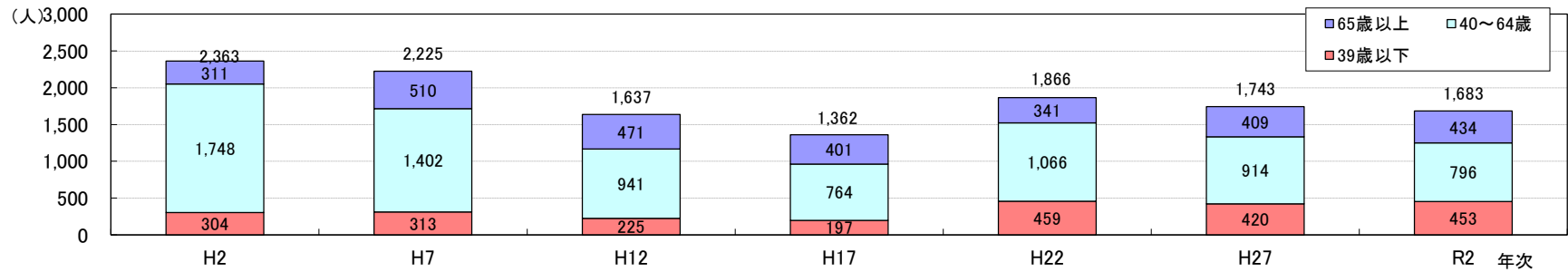
《認定林業事業体数の推移》



イ 林業就業者数

令和2年の林業就業者数は、1,683名となっており、65歳未満の就業者は就業者全体の74%を占めている。

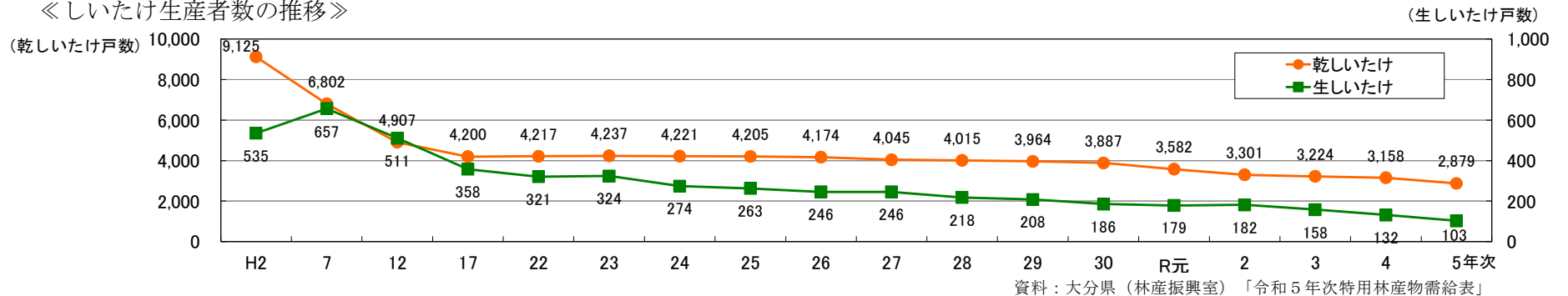
《林業就業者数の推移》



ウ しいたけ生産者数

令和5年のしいたけ生産者数は、乾しいたけが2,879戸、生しいたけが103戸となっており、乾しいたけ・生しいたけともに前年に比べて減少している。

《しいたけ生産者数の推移》



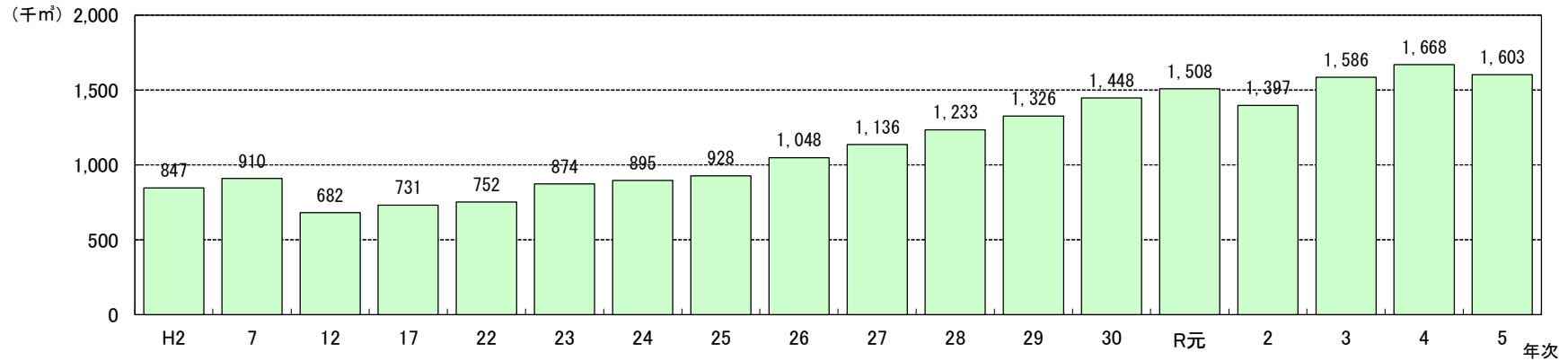
③ 林業関係の生産量及び価格

ア 木材の生産

a 木材生産量

ウッドショックからの落ち着きにより令和5年の木材生産量は前年に比べ7万 m^3 減少している。

《木材生産量の推移》

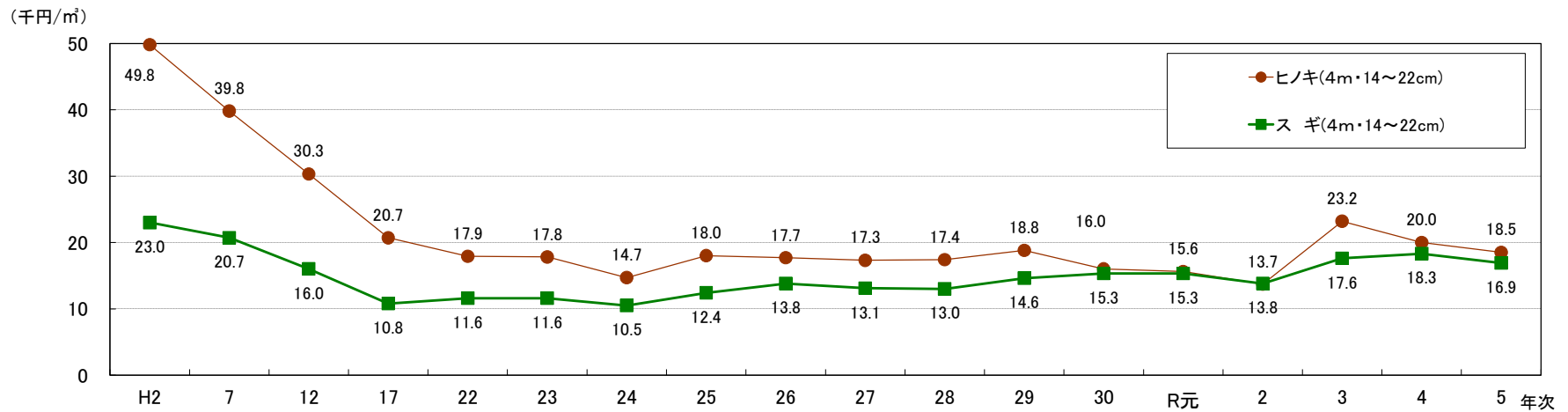


資料：農林水産省「令和5年木材統計」、大分県（林産振興室）調べ

b 丸太価格

令和5年の丸太の平均価格（長さ4m、直径14cm～22cm）は、スギが16,900円/ m^3 、ヒノキが18,500円/ m^3 となっている。

《丸太価格の推移》



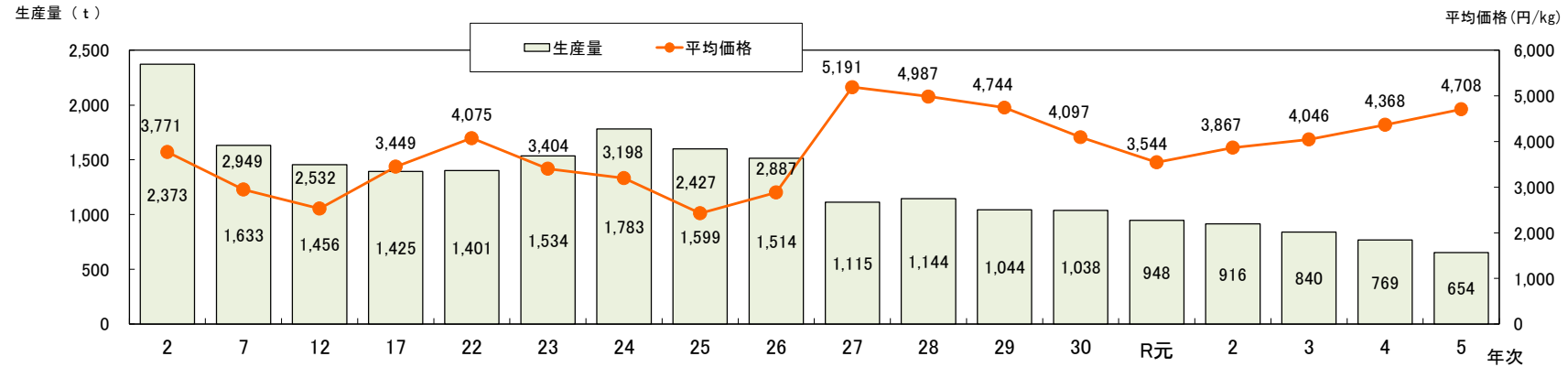
資料：農林水産省「令和5年木材需給報告書」

イ 特用林産物の生産

a 乾しいたけの生産量と価格

令和5年の乾しいたけ生産量は、前年に比べ115t減少し654tとなっている。平均価格は4,708円/kgで、前年に比べ340円値上がりしている。

《乾しいたけ生産量・平均価格の推移》



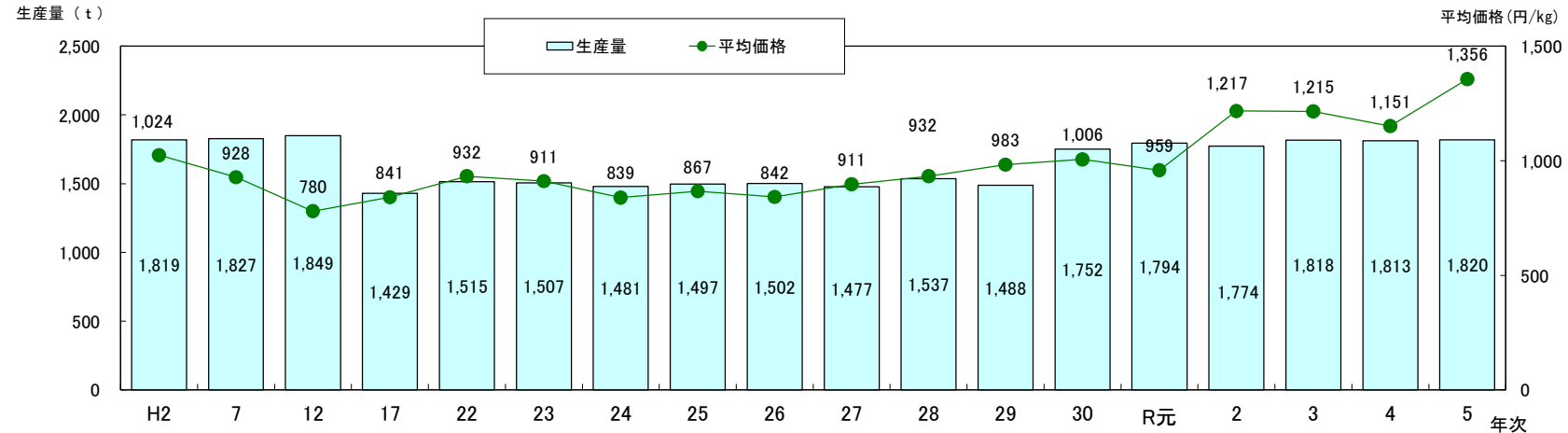
資料：(生産量) 大分県(林産振興室)「令和5年次特用林産物需給表」
(平均価格) 大分県椎茸農業協同組合

b 生しいたけの生産量と価格

令和5年の生しいたけ生産量は、前年に比べ7t増加し1,820tとなっている。

平均価格は前年に比べ205円値上がりし、1,356円/kgとなっている。

《生しいたけ生産量・平均価格の推移》

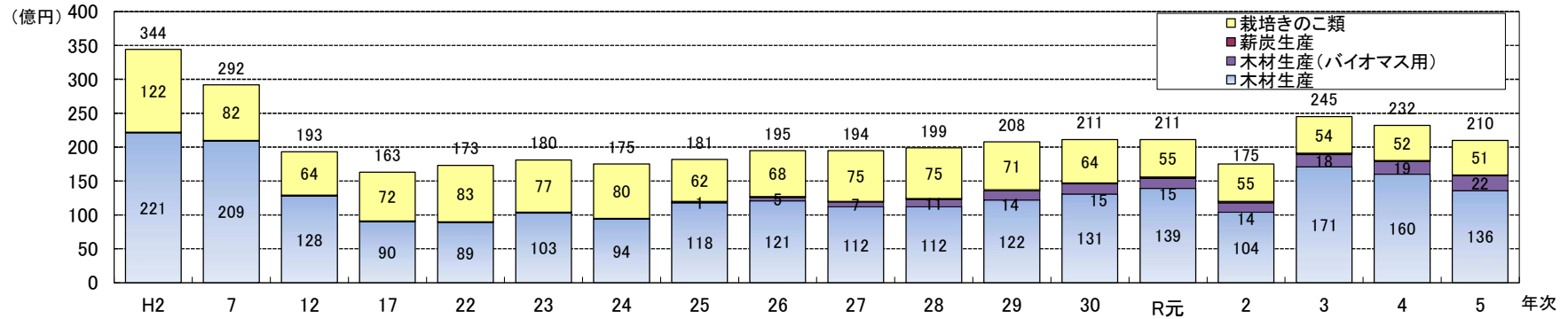


資料：(生産量) 大分県(林産振興室)「令和5年次特用林産物需給表」
(平均価格) 大分県農業協同組合

④ 林業産出額

木材需要の急激な高まりを受けて発生したウッドショックが沈静化したことに伴い、木材価格が落ち着きを見せたことから、令和5年の林業産出額は210億円と前年から22億円減少している。

《林業産出額の推移》



資料：農林水産省「令和5年林業産出額」、大分県（林産振興室）調べ
※項目毎に四捨五入をしているため合計が一致しない場合がある

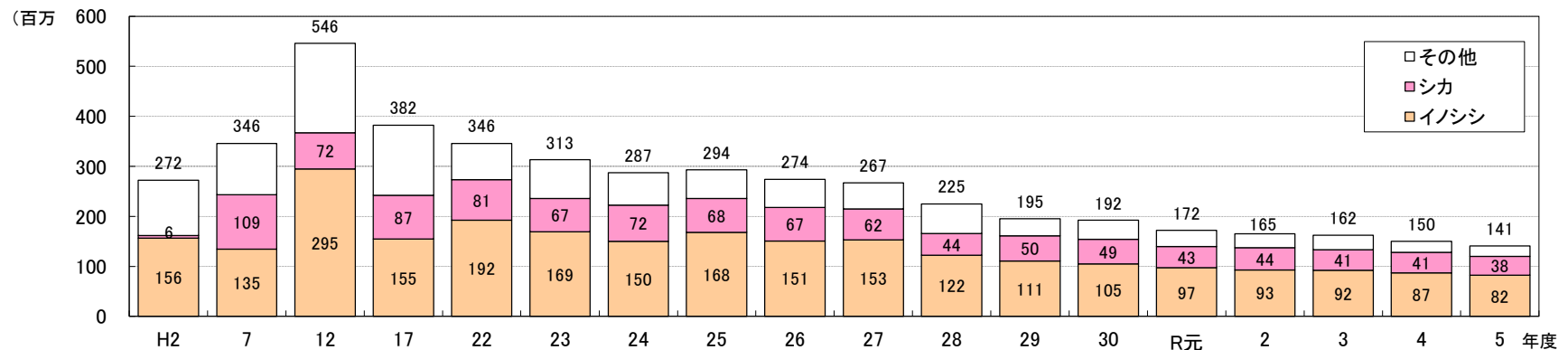
(参考) 主伐生産性 (m³/人・日) の推移

R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度(目標)
10.0	10.4	10.7	10.8	12.0

⑤ 鳥獣による農林産物の被害状況 (鳥獣被害額の推移)

令和5年度の被害額は、前年に比べ9百万円減少し、統計開始以来最少となる141百万円となっている。内訳では、イノシシ、シカによる被害額が大きく、被害全体の85%を占めている。

《鳥獣被害額の推移》



資料：大分県（森との共生推進室）調べ